杉並区

２６．５．１４
杉並区広報課

天沼検定が学校から地域に広がります！

落語や唱歌、小説などの名言・名文を集めた「ことだま百選」をすべて暗唱できれば、名人の称号を与えられる「天沼検定」。杉並の一つの中学校から始まったその取り組みは、地域の高齢者施設の利用者が検定員を務めるなど、地域に広がりつつあります。

天沼検定は、全国各地にあるようなご当地ネタの達人を認定するものではありません。この検定は、この地区にある杉並区立天沼中学校（杉並区本天沼3－10－20）の藤川章校長（57歳）と同校の国語を担当する川原龍介教諭（53歳）が中心となり、心に残る名言や名文などを集めた「ことだま百選」を音読する、暗唱形式の検定です。

藤川校長は、人間関係を築くうえで、良いコミュニケーションをとることが最も重要と考えています。人を傷つけるような言葉を使えば、良い関係を維持することはできません。良い言葉は、良い人間関係を築くばかりか、高い教養を身につけることにもつながります。そこで、平成23年10月に、春の七草や秋の七草、落語から寿限無、茶摘みや荒城の月などの唱歌、学問のすすめや雪国などの小説、円周率等の名言・名文を集めた「ことだま百選」名言・名文集めをことだま百選として選出しました。その名言・名文を暗唱できているかを検定すること、そのことを「天沼検定」と言い、判定員は教師のほかPTAや町会などの地域の方たちで編成されている学校支援本部のメンバーが担当しています。中学生のがんばりは、家族へそして地域へと伝わり、書籍化されるまでの評判となりました。

14日午前8時30分、毎朝の天沼検定が始まりました。中学生が覚えてきた名言・名文を暗唱。検定員の中には、地域の高齢者の交流や活動を行う「区立天沼ゆうゆう館」の利用者3名も含まれていました。3名は、初めて検定員を務めました。天沼検定の話は地域の中でも評判となっていましたが、中学生たちが唱歌などを暗唱すると、関心するあまり、検定するのも忘れてしまいそうになったようです。検定終了後には、検定員全員が中学生とともに、宮澤賢治の「雨ニモマケズ」を朗読すると、和やかな雰囲気に包まれました。

検定終了後、検定を務めたお礼と地域に良い人間関係が広がることを願って、ゆうゆう天沼館をはじめ、区内32のゆうゆう館と13の図書館に各2冊づつの本が寄贈されました。藤川校長は、「少しでも多くの方に読んでもらい、良い人間関係が広がってほしい」と笑顔で話していました。

［問い合わせ先］総務部広報課　TEL　3312-2111